

新潟県

公民館月報

昭和56年6月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川崎町2-9・具林業公館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4049】

発行人 会長 石井耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 90円 年共・年価 1,080円】



カモシカ

カモシカは、本州（中国地方を除く）、四国、九州のごく一部の山岳地帯に生息している日本固有の動物だ、というから、外国にはいない貴重な動物である。わが国の文化庁では数あるカモシカ生息地の中から、わが下田村笠堀ダムの上流山岳地帯、三、九〇〇ヘクタールを昭和四十六年五月十三日、「笠堀のカモシカ生息地」として国指定し、昭和四十九年十一月、カモシカ救護センターが完成した。笠堀のすぐれた自然条件として、

(一) 地質、地形上から断崖急斜面が続いて、外敵から身を守る避難所が多い。

(二) 餌となる草、葉、枝が多く、冬季でも雪にうずもれないヤマグルマの葉など豊富。

(三) 笠堀ダムという強風地帯で、夏季の気温が低く、カモシカが棲みやすい。

(四) 地形的にダムの観光船による以外に入山するルートが殆どなく人々は生息地に接近できない。

等を挙げている。佐渡の朱鷺のように今から周到な保護の手を加えぬと何時の日か絶滅の運命をたどるのではあるまいか。

絵・石月 恭男

(下山村社会教育委員長)

県公民館振興市町村長連盟総会



県大会共催など承認

前進めざし役員を拡充強化

写真は右から近新発田市長、熊倉議長
(中条町長)、石井会長(豊栄市長)
星野副会長(小千谷市長)

県公民館振興市町村長連盟の第五回目の総会が、さる五月七日新潟市で開かれた。

公民館の整備促進と活動の振興をめざすことをねらいとし、昭和五十二年十月、県内二十八市町村長をもって発足した本連盟は、その後着実に勢力を増し、本年総会現在八十市町村長に増加、未加盟は二市三十町村のみとなった。

当日は会長の石井豊栄市長以下五十二市町村が出席、予算などを審議決定するとともに、任期満了にともなう役員の変更が行なわれ、従来の九名から十二名に拡充選任された。

振興市町村長連盟 昭和56年度事業計画

1. 正会員拡充運動

公民館の整備促進と活動の振興をめざす県内全市町村長の加盟をはたらきかけ、組織基盤を確立する。

2. 公民館関係予算増額運動

例年、公民館振興市町村長連盟と全国公民館連合会が合同して実施している公民館関係予算増額に代表を送り成果を期する。

3. 研修会参加

公民館振興市町村長連盟の主催する研修会等に代表を派遣し、学習を深める。

4. 大会の共催と参加

新潟県公民館大会を共催し、参加するとともに全国公民館連合会・関東甲信越静公民館連絡協議会の主催する研究大会・振興大会にも積極的に参加し、共通課題の解決をはかる。

5. 資料発行

新潟県公民館振興市町村長連盟要覧を発行するとともに関係方面に配布して周知啓発に努める。

昭和56年度連盟役員名簿

会長	豊栄市長	石井	耕行	一男
副会長	小千谷市長	星野	利利	作
理事	松代町長	秋	山	
常务理事	両津市長	市	橋倉	雄夫
常务理事	中条町長	熊板	垣淵	直樹
常务理事	山北町長	大	津	靖三
常务理事	堀之内町長	根	田	晴毅
常务理事	川西町長	池	野	
常务理事	新井市長	小		
常务理事	青海町長			
監事	村松町長	茂	野	敏郎
監事	中之島村長	斎	藤	三

第32回新潟県公民館大会
昭和56年8月21日(金)
三条市体育文化センター

主
題

80年代の公民館の経営 活動はどうあるべきか

県公民館振興市町村長連盟名簿

(昭和56年5月31日現在)

Table with 4 columns: 市町村名, 首長名, 市町村名, 首長名. Lists names of city/town/village heads across various municipalities in Niigata Prefecture.



昭和四十九年六月、文部大臣から「青少年の徳性のかん養について」諮問を受けた社会教育審議会では、昨年十一月、その中間まとめを世に問うた。



社教審の中間まとめに寄せて

猪又徳治

これによると、複雑な環境と社会状況の変化の中におかれてはる青少年の現状と青少年の意識を行動の傾向、人格形成の上で各時期の発達課題とこれらの達成に必要な教育的配慮、青少年の社会教育活動を通して体得する態度や...

無責任の現われは異状で、これらによつてきた原因には深いものがあると思ふ。その非行の根が情緒不安定に因るものであり、人間の信頼関係の喪失にあるとしたら、どうであらうか。

て、根気よくこれらの改善に最大限の努力を払って、正當に戻さねばならないことは言うを俟たない。この一事をとつても、青少年の心身の健康と向上を願うに望むものである。

Table with 4 columns: 市町村名, 首長名, 市町村名, 首長名. Lists names of city/town/village heads for specific municipalities.

石井新一ノモ 韓国文化訪問(1)

成田

徳島県愛媛に高知栃木県われ新潟の文化訪問団 おかしきかな自由と平和あふれいて東京空港 隣席の韓国青年わが国の会社の連休を帰省するとか

出迎えの人混みの中に見出したり手を上げて 持つ歓迎の文字 文化院連合会の副会長事務総長ら迎えの顔 朝鮮の禿山は昔今来れば植林見事緑の山 干満の差ハメートルの仁川港パナマ運河の如く船出入す

高速バス車窓から 高速道ときに広きは飛行機の有時発着に使用ためとか 両棟の上がりし土の住宅はわずか改築の進む村 仏教に儒教に次いでキリスト教見えるは十字架の教会堂のみ わが国とはほぼ同じくして整然たりこの農地の区画整理は

牛耕が大部分なり耕運機わずかに見える農耕風景 (作者は本会会長・豊栄市長)

第32回新潟県公民館大会要項

1. 趣 旨

県内市町村公民館の施設整備は年ごとに進んでいるが、依然として未整備地区も残されている。一方、生涯教育体制の一環としてのコミュニティー施設等、類似の施設も増設されており、これまで社会教育のセンターと称されてきた公民館のあり方が問い直されている。

第32回県公民館大会は、このような課題をふまえ、地方の時代といわれる80年代における公民館の施設・職員の拡充整備の方向は、どうあらねばならないかを究明しようとするものである。

2. 主 題

「80年代の公民館の経営・活動はどうあるべきか」

3. 主 催

新潟県公民館連合会・新潟県教育委員会・中越地区公民館連絡協議会・三条市・三条市教育委員会・新潟県公民館振興市町村長連盟

4. 後 援

新潟県市長会・新潟県市議会議長会・新潟県町村会・新潟県町村議会議長会ほか。

5. 主 管

中越地区公民館連絡協議会・三条市中央公民館

6. 期 日

昭和56年8月21日(金)

7. 会 場

三条市体育文化センター

8. 参 加 者

市町村長・同議会議長・同議会議員・同教育委員・同社会教育委員・同公民館運審委員・同公民館長・主事・職員・社教主事・社会教育関係団体役員・一般住民等

9. 日 程

9:00 12:10 13:30 16:00

受 付	開 表 会 式	記 念 講 演	会 食	パ ネ ル 討 議	閉 会 式
--------	------------------	------------------	--------	-----------------------	-------------

10. 講 演

講師 小尾信弥(東大教授・NHK「宇宙」番組解説者)

11. パネル討議

テーマ「80年代の公民館の経営・活動はどうあるべきか」

構 成

	立 場	所 属	氏 名
司 会	ジャーナリス ト	B S Nアナウ ンサー	対馬 英洋
登 壇 者	学者・研究者	新潟大学助教 授新潟市中央 公民館運審委 員	斉藤 勉
	首 長	小千谷市長県 公民館振興市 町村長連盟副 会長	星野 行男
	公民館活動の 実践者	新潟市中央公 民館使用者団 体連絡協議会 会長	和泉 正義
	住 民 代 表 (女 性)	三条市社会教 育委員	原 マツヨ
	社会教育関係 者	県社会教育協 会主幹	吉津 勝栄

12. 会食と話しあい

参加者の会食場は大会会場内とし、食事は主催者において用意する。

あわせて、参加者としてパネル討議に参画するための予備協議(意見・質問などを集約する)場とする。

13. 参加費と参加申し込み

- (1) 参加費は一人につき1,500円とする。
- (2) 参加者は、別に定める様式の申込書(市町村ごとにとりまとめること)に参加費一人につき1,500円を添え7月21日までに大会現地事務局に申し込むこと。(各公民館に用紙あり)

14. 大会現地事務局

三条市中央公民館
〒955 三条市本町3-1-1
第32回新潟県公民館大会現地事務局
電話 02563-2-0908



「雀引車」でもある。反面、米客があれば自らお茶出しすることもある。花を生けたりする細やかな心の供えに上れている。

これらもきつと彼女流にこの道一筋を歩み続ける。 (新潟市中央公民館館長補佐、石崎海天)

プロフィール

新潟市中央公民館 事業第一係長 大河内 芳子氏

背は高からず低からず、顔は白からず黒からず。一見、大柄な彼女の第一印象は、「なんの初印象も立って端正然と物静かに話す人だろ。」と思われられることがある。市へ華齢以来十七年、一貫して公民館に勤務、新潟市にはめましくさわやかな環境に育つ。この温和な彼女も一度は仕事のことになると、毛筋の隙もない強力な理論と実行力で、相手があたえ上司といえども、とことん話し合い「参った上層女のひつとおりだ」といわせるやうな粘り強い説得力を持つている。

どんなことにも初心を忘れず、どこかの一年生ではなすが基本と公式を大切に、我々のマンネリ思考を払拭する新鮮な発想の持主でもある。本市公民館四十一歳員の「雀引車」でもある。

私生活においても持前のフアイトで、社会教育活動を実践、多くの所属グループの世話役として、時には後進となることもあがる、出向先きまで御主人が車で迎えに来てくれるとか、始さんや子供さんの理解もさることながら、彼女の生きまが周囲を納得させるものなの。これも人柄に外ならない。

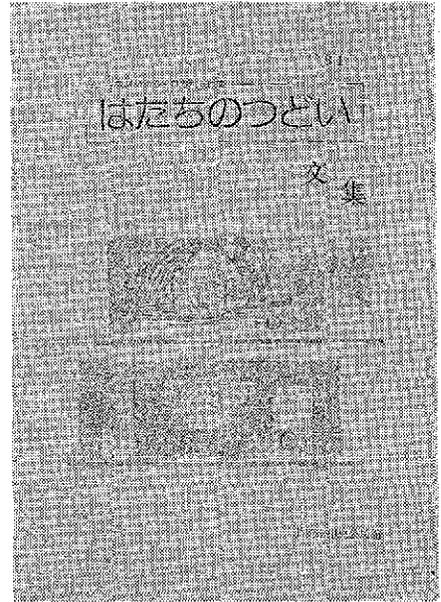
こんな紹介の仕方をする、今流行のスーパーキャリアブリーマンの上をゆくような女性と思われるが、ところが、よく見たもので昭和二、三、四、五の母娘とは思えない。「あら、こんなたまごを子供のようにクルクル回し回ししてやる顔をする。全く稚気愛すべきである。」

彼女一流の書類整理の仕方での机の上は常に書類の山、この中に必要文書を初め込ませ、一人で大蔵出し、果てはすつとんきょうな産を出した「あら、こんな所にあつたわ」といつて大きな首をすくわのようにクルクル回し回ししてやる顔をする。全く稚気愛すべきである。

公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根をおろした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌のなかから、今月は長岡市中央公民館の「はたちのつどい」からの一編を紹介します。



作品集を歓迎

公民館で作成した文芸作品集や館報、または広報案内資料などをご意送ください。毎月上記の欄に紹介してまいりたいと思います。

採用分には記念品を差し上げております。

自分は、なぜこの「はたちのつどい」に参加させてもらっているのだろうか？

就職して間も無い頃、自分の生活は、仕事と家の単純な往復でした。何に楽しみがあり、何を求めて生活をしていったのか、1日の仕事が終わる暇になると友達とコーヒーや酒を飲みに行ったり、パチンコをしに行くくらいだった。そのころ一軒のメナックで6時間も酒を飲んでいて記録を作った。そして遊び友達は、少数の人に限られていた。こんな日々だったので思い出さなくなって残っているものがあまりない。高校卒業後約2年間は、こんな生活だった。

そんな中で、自分がこの「はたちのつどい」に参加したのは、友達の付き添いとしてであった。それも途中からだったのでいったい何をしているのかまったくわからなかったが、1回目の印象としては良かった。自分としては、ただ見に来たつもりだったのであったが、いつの間にか雰囲気に酔っていた。特に異性が多く来ているのに驚いた。この機会においては、他にこれだけ多勢の異性と知り合え、また、話しのできる機会はないと思った。それからというものこの「はたちのつどい」に行くことが楽しみとなりそこで過ごす時間が1日の生活の中で一番充実した張りのある時間のようにさえ思えた。その後サークルとなり多勢の友達ができ、中央公民館を大いに利用させてもらっているうちに、今度は「はたちのつどい」にも尚かつ参加させてもらっている。

今までの中で自分自身が変わったと思うものは、何か？ それは、自分自身を表面に出す(さ

らけ出す)ことができるようになったこと、自分という人間を表面にさらけ出しても恥ずかしさや、恐ろしさがいつの間にか消え去ってしまったように思える。いや、消え去ったのではなく恥ずかしさや、恐ろしさをごまかすことができるようになったのかもしれない。自分自身を表面にさらけ出すという考え方には、二つあると思う。一つには、自分自身は、この様な人間なんだ、これしかできない人間なんだと、型にはめてしまい、これ以上変わりようのない人間にしてしまう消極的な考え方、もう一つには今の自分自身は、この様な人間なんだ、これができる人間なんだと自分自身を理解し、それを踏まえて自分自身を見直そうとする積極的な考え方もある。自分は、自分自身を表面にさらけ出すことができるようになったのであるから、今後は、後者の考え方の様に、自分自身を見直し、そして、変えて行くようにしなければといつも「はたちのつどい」の終る3月頃になると思うのである。

自分が友達の付き添いとして金魚のふんのようにくっついていただけのきっかけが、これほどのきっかけになるとは……。

「ねえ君、ぼくはこう想うのさ人生なんて紙芝居だと、涙も笑顔も続きは明日、時って言う名の自転車こいでやさしさ紙芝居そして誰れもが主人公」

「ねえ君、ぼくはこう想うのさ人生なんて紙芝居だと、白くて大きな愛のぬり絵を笑いや涙の絵の具で染めるやさしさ紙芝居そして誰れもが主人公」

人生が紙芝居であれば、たった1ページのおうとつのある紙芝居にしたい。

さ
っ
か
け
—
河
田
誠

主体者は国民

社会教育の基本理念

柏崎市では現在「下」地区に独立公民館が併列型に設置され、昭和六十一年度より第二次より、年々施設整備が進められていくが、職員体制の面でほかに未整備である公民館は「連絡型」である公民館のみで、地区公民館には市職員は配置されておらず、各地区公民館には民間人の非常勤公民館長(一地区指図書)という名称の非常勤職員が各一名ずつ配置されており、この地区指図書が地区公民館の開館業務と、公民館活動の具体的な実施担当者となっている。

公民館番頭日記 (3)

1、社会教育の基本理念
国民である。
2、社会教育の基礎は、ひとりの自発的な学習意欲にある。
3、社会教育の振興は、ひとりの自発的な学習意欲を喚起し、その意欲を満たす学習の機会(場)を豊富にするにある。

この地区館活動の中心的存在担当者である地区指図書の責務の向上と、高揚が、地区公民館活動振興の鍵であるといふことと、毎月(一回二時間)研修会を実施し、具体的な業務業務を話し公民館活動、社会教育等の理論をこつこつと研修を続けている。

そして年度はじめの四月の研修会(柏崎市中央公民館事務長・徳岡助天)

